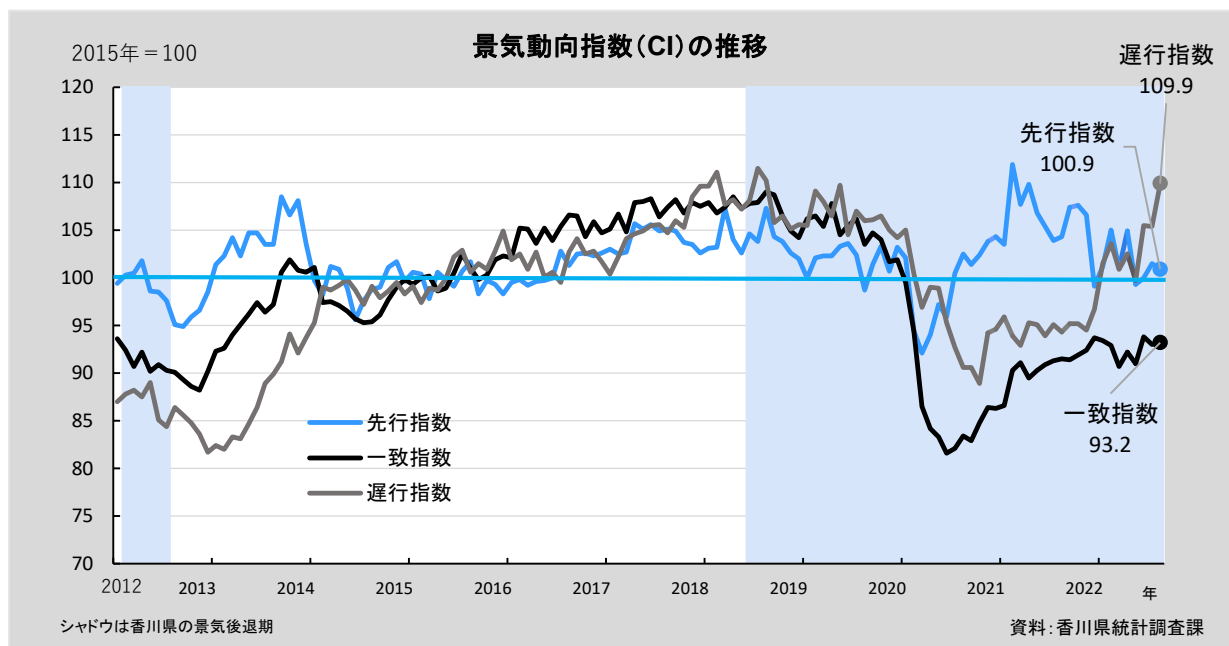


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	減少している。
生産活動	持ち直しの動きが一服している。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直している。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり上昇



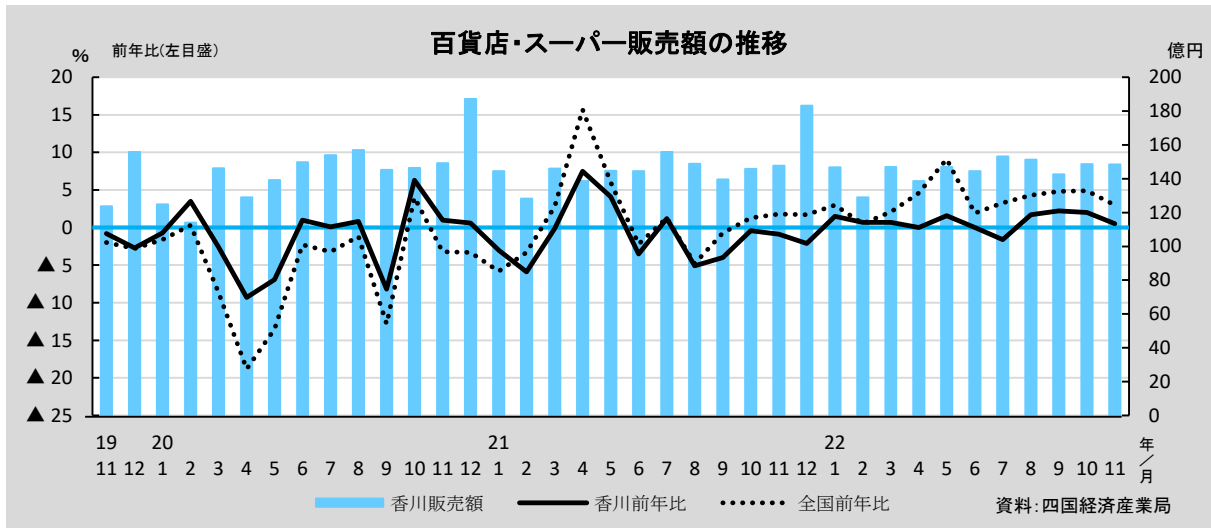
景気の現状をみると、10月のCI一致指数は93.2（前月比+0.2ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は100.9（同▲0.6ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI遅行指数は109.9（同+4.5ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、有効求人倍率、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人員が上昇に寄与したことにより、前月から0.2ポイントの上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.81	1 雇用保険受給者実人員	0.32	1 常用雇用指数	0.09
	2 乗用車新車登録台数	1.20	2 有効求人倍率	0.70	2 有効求職者数	0.71
	3 鉱工業在庫率指数	0.60	3 所定外労働時間指数	▲ 0.57	3 消費者物価指数	1.76
	4 生産財生産指数	▲ 0.61	4 鉱工業生産指数	▲ 0.01	4 家計消費支出	1.89
	5 新設住宅着工戸数	▲ 0.20	5 鉱工業出荷指数	0.47	5 鉱工業在庫指数	0.41
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.27	6 建築着工床面積	▲ 0.54	6 法人事業税調定額	▲ 0.37
	7 消費者態度指数	▲ 0.32	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.21	7 第3次産業活動指数	0.29

●百貨店・スーパー販売額

4カ月連続増加 ↑

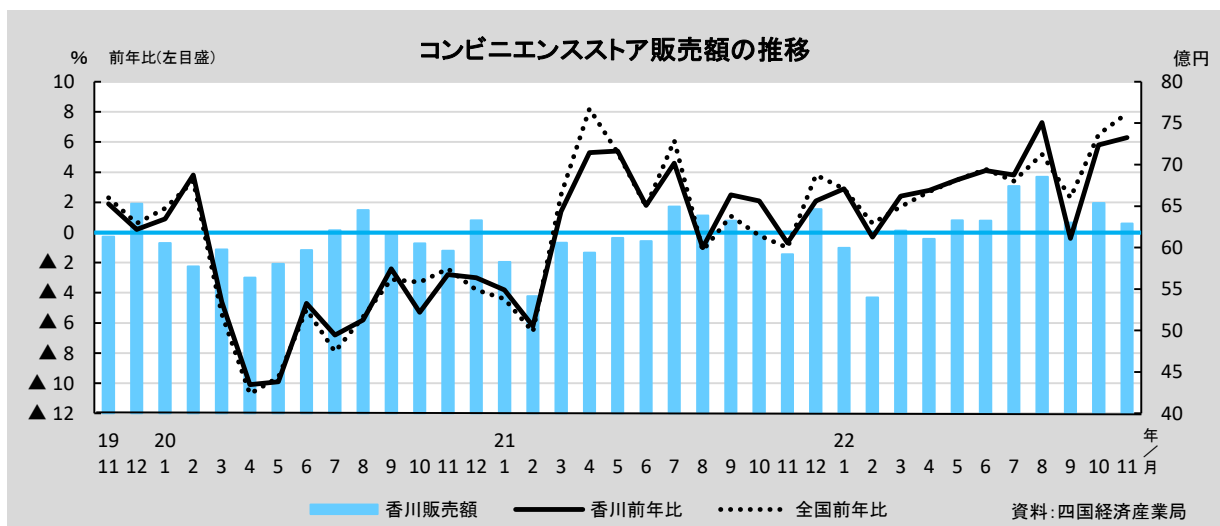


2022/11月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	116,558	59,279	1,090,383	1,975	5,335	26,110	184,325	421	1,484,386
前年同月比(%)	▲ 10.0	▲ 4.0	▲ 1.8	▲ 23.5	▲ 6.6	▲ 3.5	▲ 0.2	▲ 18.1	0.5

11月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は148.4億円で、前年同月比+0.5%と4カ月連続で増加した。「飲食料品」は引き続き内食需要で生鮮食品や冷凍食品が堅調に推移し同+1.8%。外出機会の増加で「身の回り品」は同+4.0%と好調だった。

●コンビニエンスストア販売額

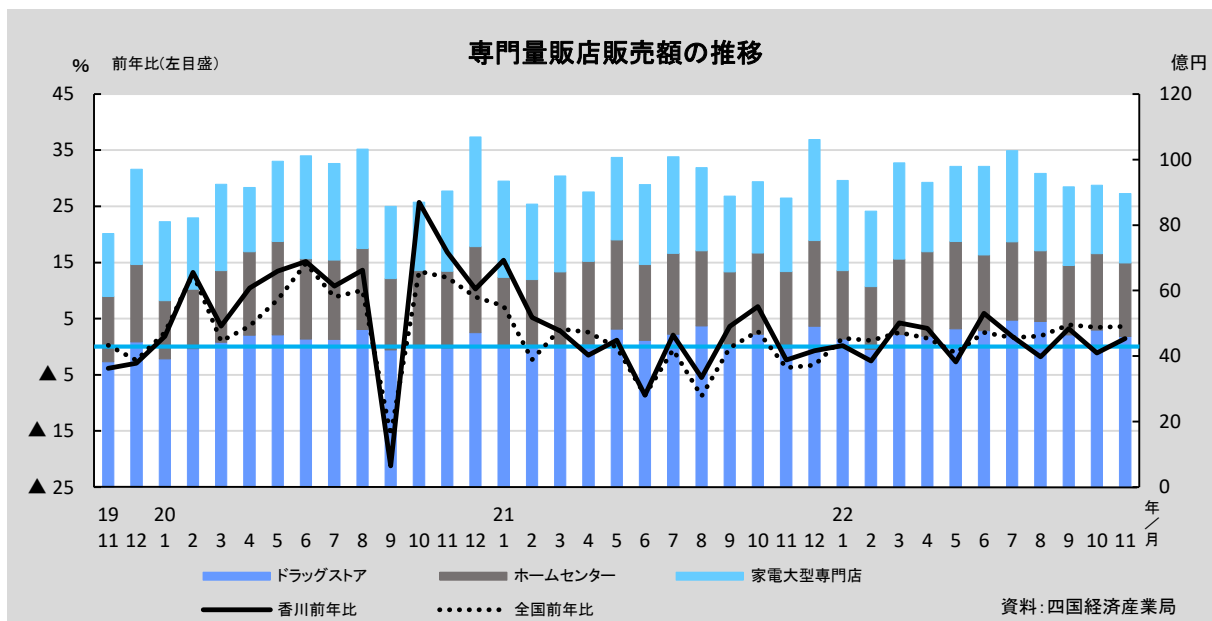
2カ月連続増加 ↑



11月のコンビニエンスストア全店(409店)の販売額は62.9億円で、前年同月比+6.3%となった。商品価格の上昇、販売促進の取り組みの効果などで販売額が増加したほか、フライヤー商品や冷凍食品などが好調で、2カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

2カ月ぶり増加 ↑

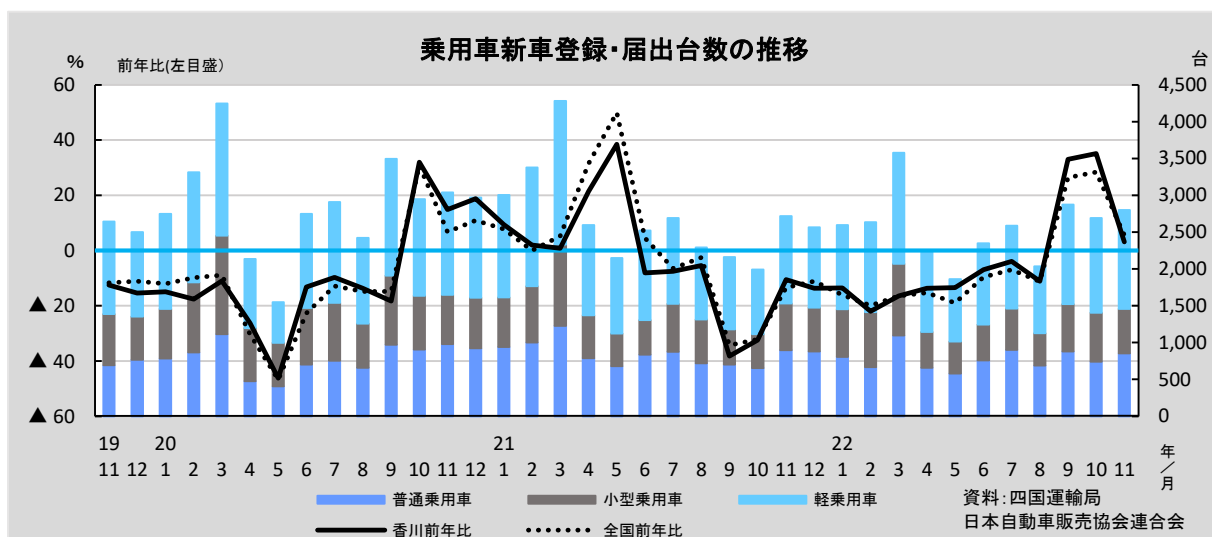


11月の専門量販店全店（210店）の販売額は89.6億円で、前年同月比+1.5%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、入店客数が減少したほか気温高で季節家電が不調のため、販売額は21.1億円で前年同月比▲6.1%、**ドラッグストア**（135店）は、衛生用品、調剤医薬品などが伸びたほか、食品などに商品価格上昇の影響がみられたことから、販売額は46.0億円で同+8.3%となった。**ホームセンター**（46店）は、入店客数が減少したほか季節商品の動きが悪く、販売額22.5億円で同▲3.6%となった。

●乗用車新車販売台数

3カ月連続増加 ↑



11月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,802台で、一部で部品不足による受注停止があったが軽自動車が好調で全体を押し上げ、前年同月比+3.1%と3カ月連続で増加した。

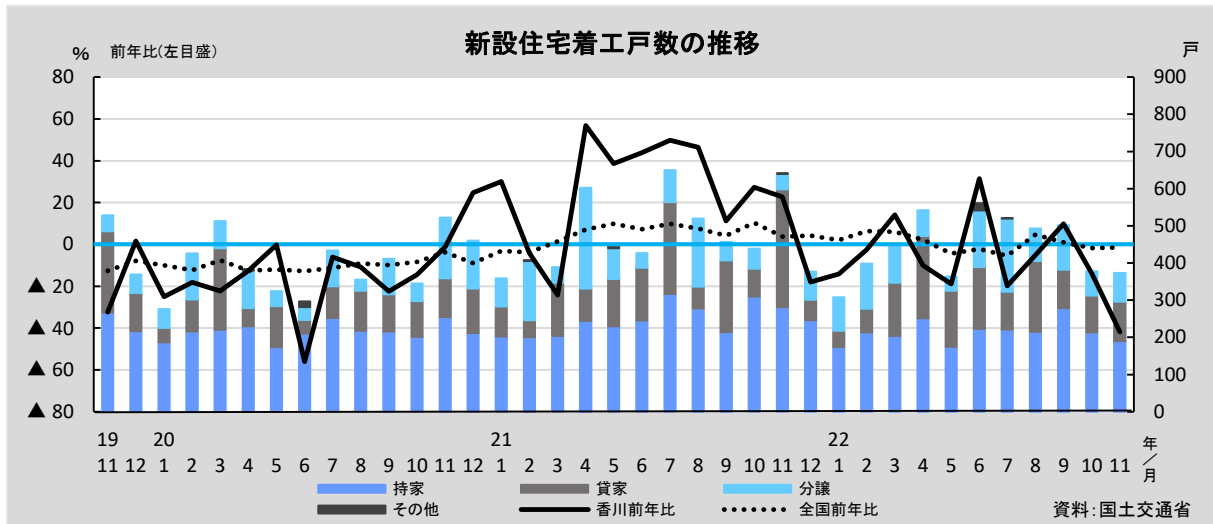
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲4.7%、小型乗用車で同▲5.1%、軽乗用車で同+13.3%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月連続減少 ↓



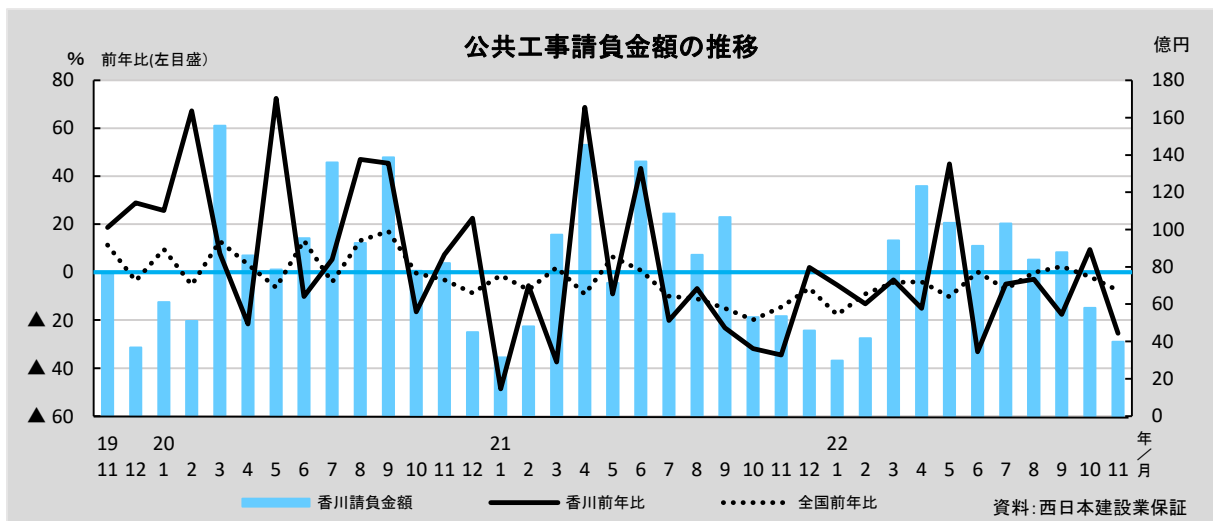
11月の新設住宅着工戸数は373戸で、前年同月比▲41.8%と2カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲32.4%、**貸家**で同▲66.6%、**分譲住宅**で同+83.3%となった。

公共投資

減少している

●公共工事請負金額

2カ月ぶり減少 ↓



11月の公共工事請負金額は39.9億円で、前年同月比▲25.5%と2カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲84.8%、**県**で同▲3.9%、**市町**で同+30.4%となった。

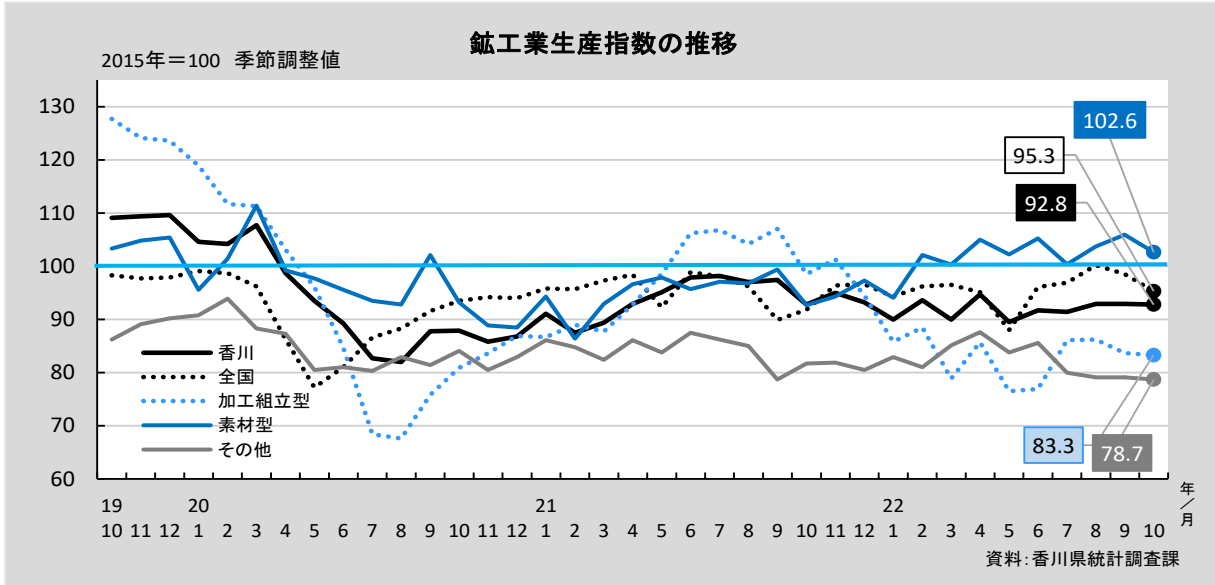
2022.4月～11月の累計では前年同期比9.2%減少している。

生産活動

持ち直しの動きが一服している

● 鉱工業生産指数

3カ月ぶり低下 ↓



10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は92.8（前月92.9）となり、3カ月ぶりに低下した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品、塩など）は前月比▲15.2%、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同▲14.7%と低下した。

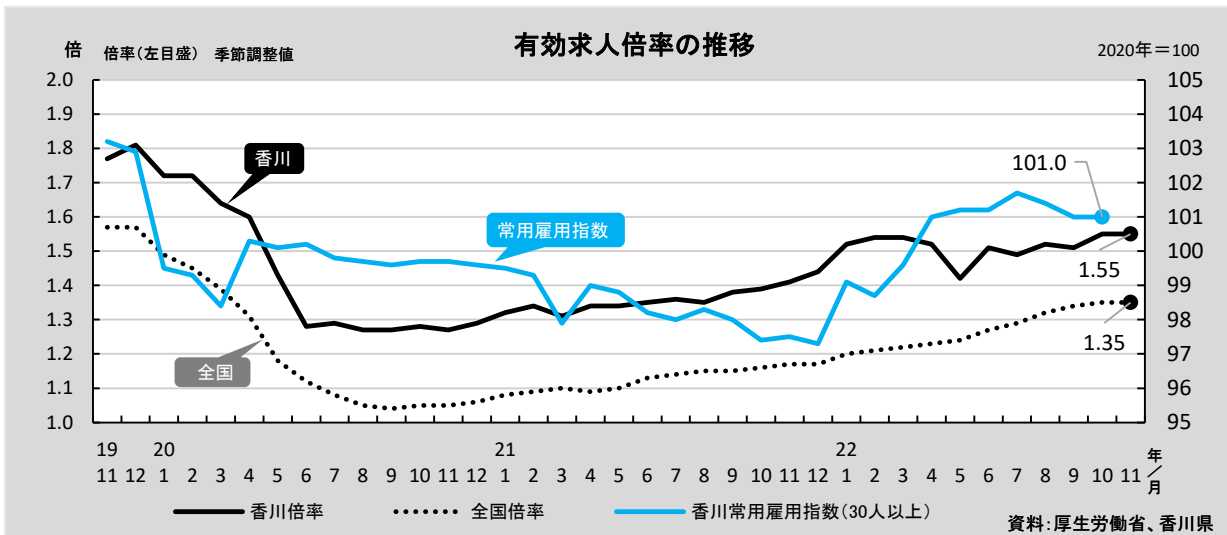
一方、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーン、ころ軸受など）は同+5.5%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

前月と同水準 →



11月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.55倍（全国13位）と前月と同水準だった。

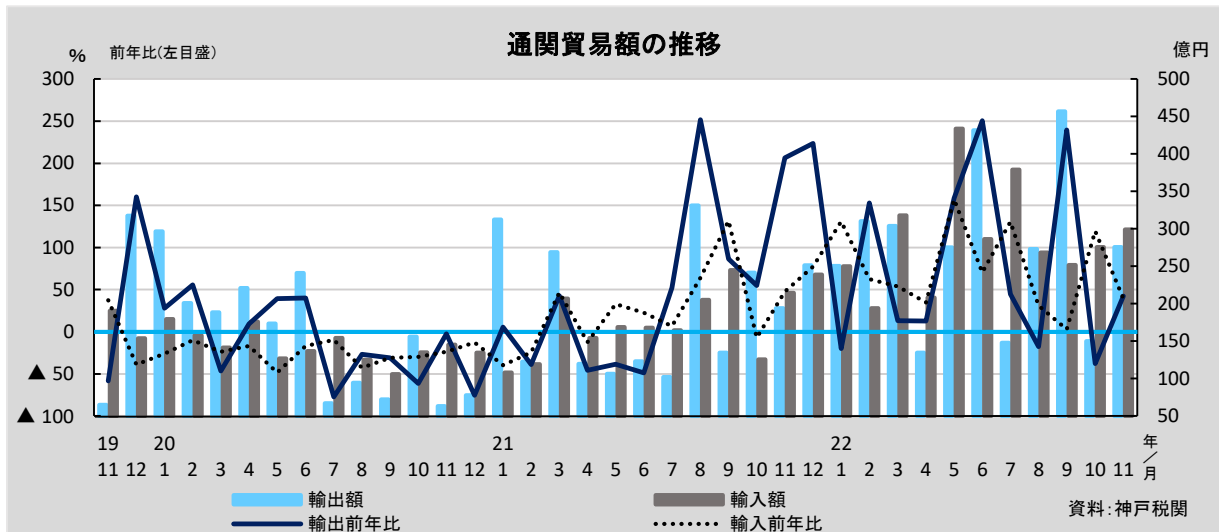
新規求人（原数値：前年同月比）は、鉱業・採石業・砂利採取業、情報通信業、金融業・保険業、電気・ガス・熱供給・水道業等で増加し、全体で+6.6%と20カ月連続で増加した。

10月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.0となり、前年同月比は8カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.28
事務的職業	0.71
販売の職業	2.74
サービスの職業	3.42
生産工程の職業	2.70
輸送・機械運転の職業	2.24
建設・採掘の職業	7.67
運搬・清掃・包装等の職業	1.23

貿易

輸出、輸入ともに増加している



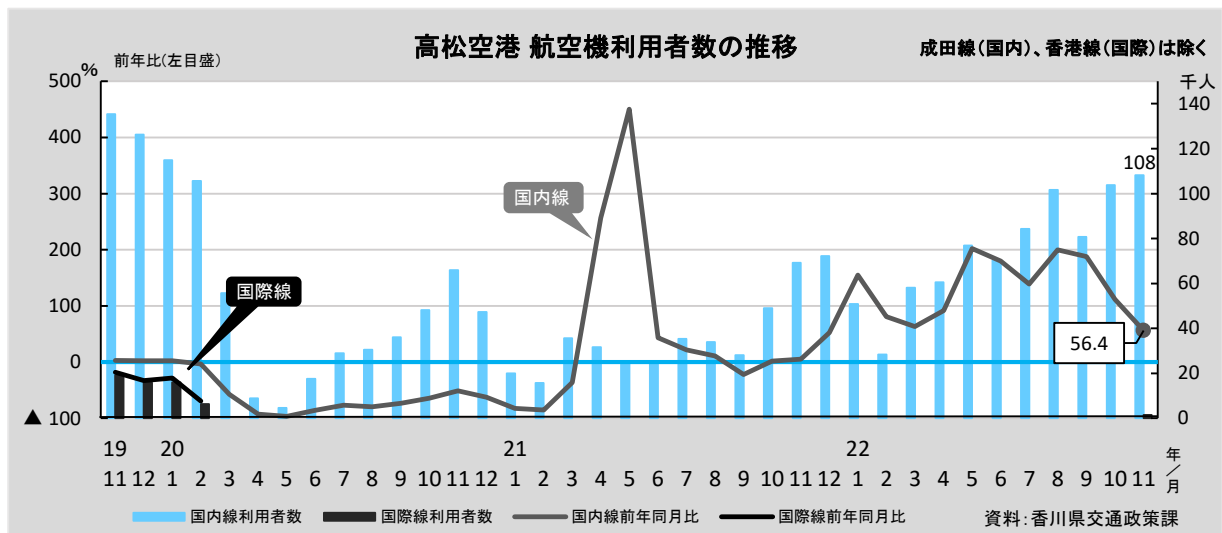
11月の輸出額は前年同月比+42.2%の275.8億円、輸入額は同+39.5%の299.0億円となり、差し引き23.2億円の入超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比+28.4%の133億円となった。輸入は、天然ガス等輸入額が同2.5倍の92億円となった。

交通

国内線は14カ月連続増加、国際線はソウル線運行再開

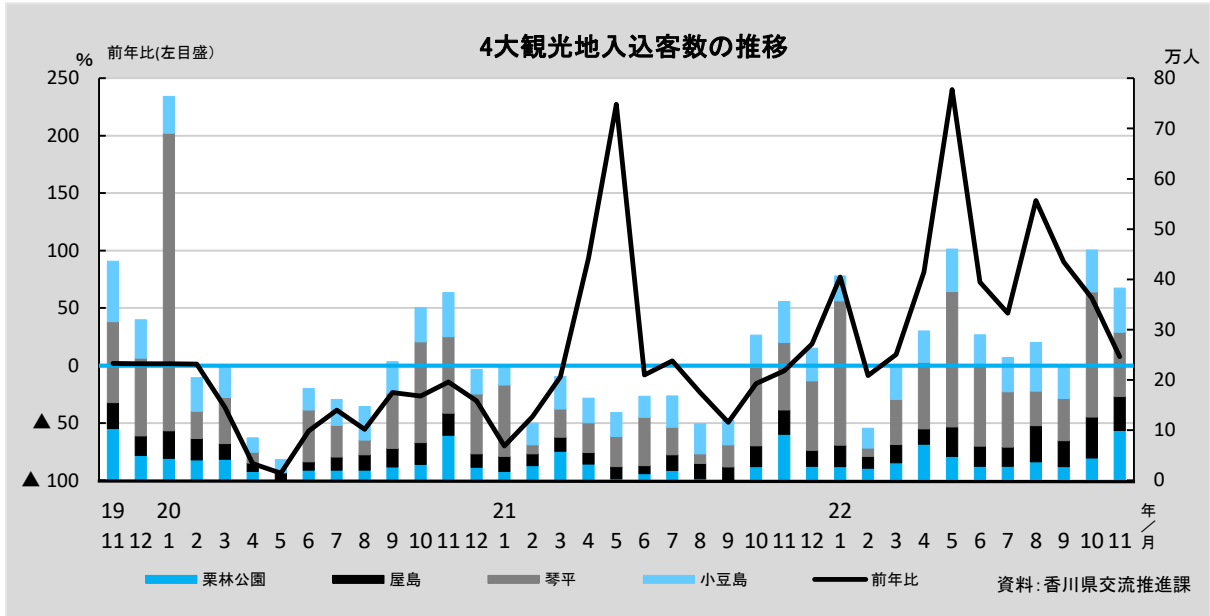
● 高松空港旅客輸送実績



11月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が108,241人（前年同月比+56.4%）となり、14カ月連続で増加した。羽田線は101,061人（同+50.7%）、那覇線は7,180人（同+237.4%）となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲20.1%となった。

国際線（ソウル・上海・台北線）は2020年3月から32カ月連続で全面運休が続いていたが、11月から運航を再開したソウル線は1,494人となった。2023年1月に台北線が運航を再開し、4月からは香港線が運航再開予定。

●主要観光地入込客数

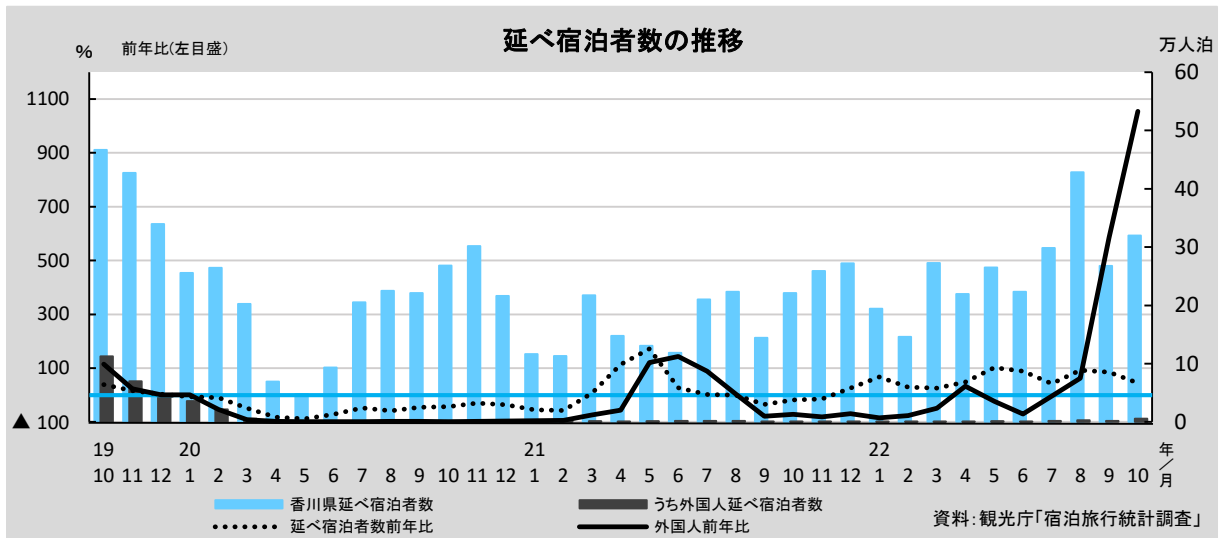


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
11月(人)	前年同月比	99,610	8.4%	67,105	38.6%	128,000	▲4.5%	88,082	7.9%	382,797	7.6%
1~11月累計(人)		471,257	81.0%	541,059	73.0%	1,597,000	108.4%	762,793	29.1%	3,372,109	63.5%

11月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+7.6%と9カ月連続で増加した。観光シーズンの中、全国旅行支援や瀬戸内国際芸術祭秋会期の効果もあり、栗林公園は前年同月比+8.4%、屋島は同+38.6%、小豆島は同+7.9%と前年を上回った。

1~11月の累計では前年比+63.5%となった。

●延べ宿泊者数



10月の延べ宿泊者数は319,820人で、前年同月比+44.7%と11カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲31.5%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は5,890人となり、前年同月比+1054.9%と3カ月連続で増加した。2019年同月比では▲94.8%となった。